石川県奥能登における集落活性化に向けた地域資源評価の枠組み

The framework of local resource evaluation for community support in Oku-Noto, Ishikawa

○清水克志*・嶺田拓也*・坂根　勇*　能登史和**

SHIMIZU Katsushi, MINETA Takuya, SAKANE Isamu, NOTO Fumikazu

１．はじめに

2011 年６月に，新潟県佐渡市とともに石川県能登地方４市４町（七尾市，輪島市，珠洲市，羽咋市，志賀町，中能登町，穴水町，能登町）が世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage Systems:GIAHS）に登録された。能登の里山里海は，持続的な生物資源の利用や農林産物の生産の継続により育まれた「多様な生物資源」,「優れた里山景観」,「伝統的な技術」,「文化・祭礼」などによって，多様な地域資源が集約された地域として評価を受けている。しかし，これらの地域資源を担うべき単位と考えられている集落は，地形的な条件等から大半が小規模であり，地域内の 1,109 集落を対象としたアンケート（石川県）では，回答数の約７割が５～10 年後の里地里山の維持が困難としている。従って，持続的な農林産物の生産の担い手としての集落の活性化支援が必要である。

地域とは自然的・人文的・社会的な様々な要素（地域資源）の複合体として捉えられる。個々の要素は,「ありふれた」「さりげない」ものであっても，複数の要素を意味づけ再構成・提示することにより，地域の個性を表現し，その価値や魅力を高めることが可能である。歴史的に蓄積されてきた地域資源を再評価し，再構成することは，住民や多様な主体による農地・水等の農村地域資源の保全・活用を促すために有効かつ必要な手段である。本報告では，奥能登地域において地域資源を再評価していくために，モデル集落から地域の個性を表現しうる要素を抽出し，その連関の枠組みを示すことを目的とした。

２．モデル集落の選定と地域資源の収集方法

モデル集落は，地域の活性化を実現できている集落から農業の持続力が低いとみなされる集落まで様々な活性レベルの集落を包含するように選定した。具体的には，上記の集落アンケートの回答から地域資源に対する保全活動数が活発に行われている２集落（WK, NM 集落）および保全活動への取り組み頻度が低い３集落（AM，SK，SK）を抽出した。各集落の地域資源の収集は，資源や要素の複合体としての地域を表現し，その魅力を活かすことに繋ぐことができるよう，地誌の取りまとめ手法を応用した。

３．奥能登の地形的特性

奥能登（輪島市，珠洲市，穴水町，能登町）の面積は，石川県の約 27%の 1,130k ㎡であり，全体が丘陵地でとくに奥能登を南西から北東に連なる奥能登丘陵が日本海に面する外浦と富山湾に面する内浦の分水界となっている。内浦・外浦ともに分水嶺から海岸までの距離は短く，流程の長い河川はない。

外浦海岸線とほぼ並行に南西から北東方向に奥能登丘陵が走行している。外浦海岸は岩石海岸が卓越し，随所に波食台や岩礁が露出している。そのため外浦側には平地がほとんどない。北西斜面の傾斜地の多くは地すべり地帯となっており，輪島市の白米の千枚田に代表されるような棚田が分布している。

*農業・食品産業技術総合研究機構・農村工学研究所　National Institute for Rural Engineering, NARO
**石川県農林水産部　Agriculture Department, Ishikawa Prefecture
キーワード：農村振興，世界農業遺産，地域資源要素

一方の内浦海岸は沈降海岸となっており，湾入部が漁港として利用されている場合が多い。

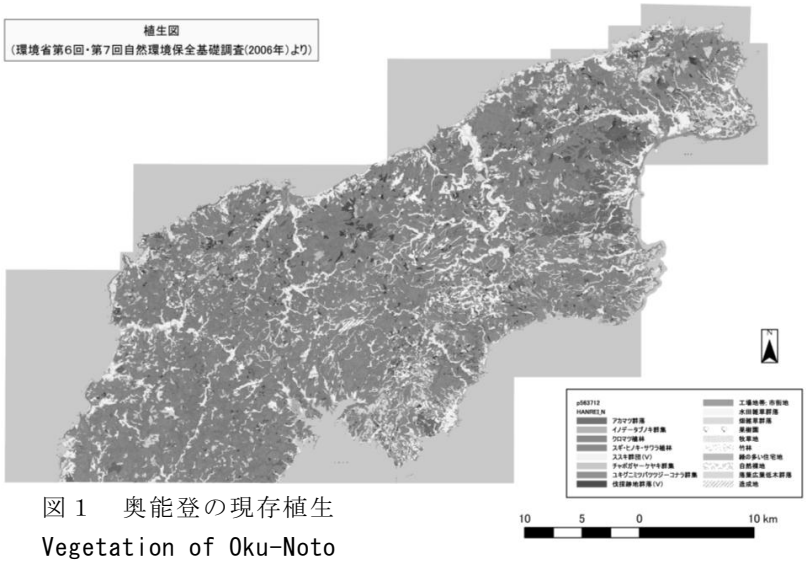

図１　奥能登の現存植生
Vegetation of Oku-Noto

４．　地域資源の分布

例えば，林業では林産物としてアテ材，山菜，マツタケを含めたキノコ類などが利用されている。これらの地域資源は，スギ・ヒノキの植林だけでなく，アカマツやコナラ林に代表される雑木林の産物であることが多い。奥能登の地域資源の特徴の一つには，里山においては植林地と雑木林がモザイク状に複雑に分布していることも挙げられる（図１）。

５．　地域資源要素の整理と要素間の連関

地域資源を構成する要素は，一般的に地形，植生などの「自然要素」，食文化や習俗・祭事などの「人文要素」，産業や交通条件などの「社会要素」から構成されている（図２）。各要素はお互いに連関しながら，地域の個性を形成している。例えば，保全活動が活発な NM 集落へのヒアリングから，地域の表現型として， NM 集落では「農家民宿」であることが把握され，その表現型に連関する要素を図３に示した。NM 集落の自然要素としては，里山の植生であるコナラ群集や植林のスギ・ヒノキがあり，林床には多様なキノコや山菜，春蘭などの野草を産し，人文要素である豊かな食文化や炭焼の技術を支えている。また社会要素である小学校区（校下）というまとまりは，廃校後の施設利用や農家民宿の拡大における大きな拠り所となっていた。このように，地域の個性は，各要素間の連関によって把握しうると考えられ，現在，地域の個性としての「表現型」を表出していない地域に対しても，地域の有する資源を要素分解することにより，地域のとりうる表現型の可能性を整理することができると考える。

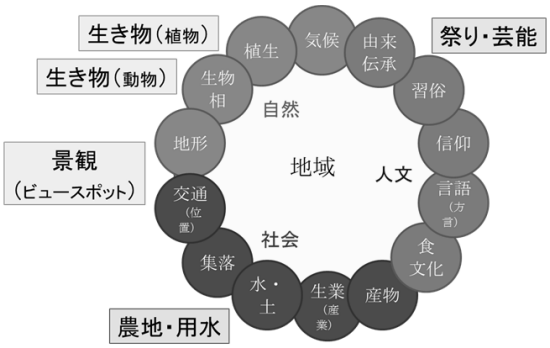

図２　地域を構成する要素
Component of local resource

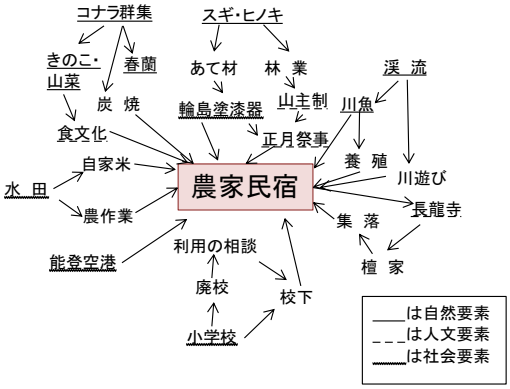

図３　NM 集落にみる資源要素間の連関
Linkage between resources elements of NM